

先進事例調査報告(補足)

- 各施設のリニューアルについて (ヒアリングでの聴取結果)

■ 東京都人権プラザ(平成14年設置・平成29年移転・令和2年リニューアル・令和5年「セサミストリート」特別展示導入)

【令和5年「セサミストリート」特別展示導入について】

- ・東京都人権プラザの専門員が中心となって、「子どもの権利」に関する専門家の監修の下、企画・制作。
- ・子どもが関心を持つことができる展示デザイン・内容とするため、「セサミストリート」のキャラクターを活用。

■ 長岡戦災資料館(平成15年開館・平成20年移転・令和8年移転・リニューアル予定)

【令和8年予定の移転・リニューアルについて】

- ・大学教員、歴史研究者、資料館運営ボランティアの代表等から成る委員会において検討。また、空襲体験者を含む資料館運営ボランティアからも意見を聴取。
- ・移転予定地として長岡空襲の爆撃中心地に近接する旧市立図書館跡地を選定。展示内容は「長岡空襲の史実に焦点を当てる」ことを基本方針とした。

■ 舞鶴引揚記念館(昭和63年開館・平成27年リニューアル)

【平成27年リニューアルについて】

- ・ユネスコ世界記憶遺産登録に向けた検討のために設置された有識者会議から意見聴取を行った。当時の館長が中心的役割。
- ・有識者会議の意見を踏まえ、「開かれた施設」とする方向性が定められた。

■ 埼玉ピースミュージアム(埼玉県平和資料館)(平成5年開館・平成25年リニューアル)

【平成25年リニューアルについて】

- ・県職員を中心とした検討委員会でリニューアルの方向性を決定。
- ・博物館勤務経験者、大学教員、地元の校長などの外部有識者から意見を聴く場も設けた。

■ 野尻湖ナウマンゾウ博物館(昭和59年開館・平成30年リニューアル)

【平成30年リニューアルについて】

- ・持続可能な博物館を実現すべく、「ユニバーサルデザイン」と「地域一体での博物館づくり」をコンセプトとして設定。
- ・学識経験者、地域関係者で構成する構想策定委員会を中心に検討。

北方領土隣接地域における地域一体となった
啓発促進策についての調査研究

先進事例調査報告

東京都人権プラザ

■ 施設の概要(平成14年設置・平成29年移転・令和2年リニューアル)

- 東京都が設置した人権啓発のための拠点施設。
- 人権について楽しく体験して学べる展示室、セミナールームや図書資料室などがある。
- 人権に関する相談も受け付けている。

出典:東京都人権プラザ(<https://www.tokyo-hrp.jp/>)

■ 説明の概要

- 車椅子体験コーナーではバリアを実感する仕組みを用意し、修学旅行や社会科見学でも活用されている。
- 令和5年に導入された「セサミストリート」と連携した特別展示では、クイズや塗り絵を通じて子どもの権利を親しみやすく紹介し、親子連れの関心を集めている。
- 展示パネルのデザインについて、ガイドが子供達に説明しやすいよう工夫している。

■ 所感

- 親しみやすい展示内容や体験活動を通して、子どもから大人まで、来館者が人権を自分ごととして捉えられるよう工夫されている。



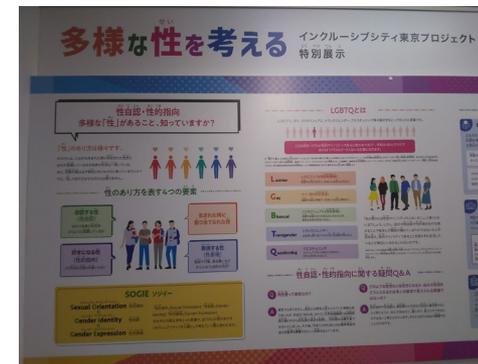
▲バリアを実感し、自分ごととして捉えることができる車椅子体験コーナーの様子



▲人権問題の当事者が困難を共有し、来館者が解決策を書いたり、企業とのマッチングに繋がられる掲示版



▲東京都が指定する17の人権それぞれについて解説したパネル



▲「多様な性」についての解説パネル



▲「セサミストリート」とコラボし、子どもの権利条約について解説したパネル



▲DE&Iと親和的な「セサミストリート」の理念についても解説されている



▲街のジオラマにタブレットをかざすとクイズに挑戦でき、日常生活の人権課題を学ぶことができる展示



▲休憩室の奥に設置されたキッズスペース

長岡戦災資料館

- 施設の概要(平成15年開館・平成20年移転・令和8年移転・リニューアル予定)
- 長岡市恒久平和の日条例(平成27年制定)の具現化を使命とする。
- 長岡空襲を語り継いでいくための市民活動の場、市内小中学校の平和学習の拠点として機能。
- 戦争に突き進む日本～米軍の日本本土空襲～長岡の空襲や、太平洋戦争下の茶の間、焼夷弾、模擬原子爆弾の模型等、6000点の資料を所蔵、250点を展示。

出典:長岡戦災資料館「長岡戦災資料館について」

■ 説明の概要

- 焼夷弾模型や焦げた照明器具などの実物を展示するなど、「物に語る」展示構成。
- 空襲体験者と市民のボランティアによる語り部活動。紙芝居や朗読による体験の継承。
- 令和8年に移転・リニューアル予定。リニューアル検討に当たっては、空襲体験者等の意見を聴取・反映。

■ 所感

- 実物展示により、空襲の惨禍を実感できる。空襲を実際に体験された方々の意見も踏まえつつ、リニューアルが検討されている。



▲入り口右側から始まる展示ブース



▲入り口左側に設けられたボランティアブース



▲ボランティアブース近くに設置された、実物の軍服を着たマネキン



▲館内中央に展示された、原爆被害者である佐々木禎子さんによる折り鶴



▲館内左手に設置されたモニター



▲館内左手に展示された、戦時中の暮らしを再現したセット



▲館内奥に展示された、長岡空襲で使われた焼夷弾の実物大模型



▲館内奥に設置された、空襲後の長岡を再現したジオラマ

舞鶴引揚記念館

- 施設の概要(昭和63年開館・平成27年リニューアル)
- シベリアでの抑留生活を知る資料をはじめ、引揚げに関する機器や写真など、全国から寄贈された5千点の貴重な資料の寄贈を受け、常設展示にて1000点を超える展示を行っている。
- 平成27年10月10日に収蔵資料のうち570点がユネスコ世界記憶遺産に登録された。

出典:舞鶴引揚記念館「舞鶴引揚記念館パンフレット」
舞鶴引揚記念館(<https://m-hikiage-museum.jp/index.html>)

■ 説明の概要

- 学校連携による探究学習発表や学生語り部活動を通じ、次世代への継承と地域教育を推進。
- 地域団体や教育機関との協働で、社会的認知拡大と地域の誇りを育む活動を展開。
- 老朽化対応を機に展示や動線を改善し、「次世代体験型施設」としてリニューアルを実施。
- 戦後の希望や人間の強さを伝える展示を重視し、悲劇だけでなく前向きな歴史像を発信。

■ 所感

- 体験を重視した展示。地域や若者とも連携し、引揚げ・抑留の歴史を未来に継承する姿勢が感じられる。



▲受付近く、引揚げに関するエンターテインメント作品のフライヤーが展示されたブース



▲入り口を入ると突き当たりにあるセミナースペース



▲音声や冷気を通し、抑留中の掘立て小屋を体感することができる展示



▲舞鶴港の様子を再現したジオラマ



▲展示室入り口近くに設けられた折り鶴の展示



▲実物の衣服や器具類を用い、被抑留者の様子を再現した展示



▲引揚船の模型が展示された、展示室奥のスペース



▲収蔵品検索や平和へのメッセージ映像を視聴することができるコーナー

埼玉ピースミュージアム(埼玉県平和資料館)

■ 施設の概要(平成5年開館・平成25年リニューアル)

- 風化しつつある戦争の体験を次の世代に引き継ぎ、県民に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えることにより、平和に対する意識の高揚を図り、平和な社会の発展に寄与することを目的とする。
- 戦争体験者証言ビデオや、戦争・平和を題材としたアニメの上映など、様々な普及事業を実施している。

出典:埼玉ピースミュージアム(<https://www.saitama-peacemuseum.com/>)

■ 説明の概要

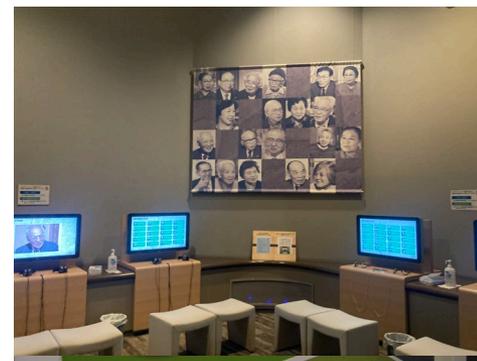
- 子どもの視点を意識し、体験型や学校・生活関連の展示を多く導入。また、ピースキャラバン(出前授業)やピースガイダンス(館内解説)を通じて県内外の学校における平和教育に寄与。
- 地元団体と連携しながら、様々な企画(コンサート、展示会等)を実施。本館及び地域の博物館・美術館・動物園・道の駅等で構成する連絡協議会における連携した取組(デジタルスタンプラリー等)を行うなど、地域交流を推進。

■ 所感

- 地域とも連携しつつ、平和学習の拠点施設として機能している。



▲全体のシンボルとなっている展望台



▲戦争体験者の体験談を視聴することができるビデオコーナー



▲戦中の教室が再現され、音声と照明で空襲時の体験ができる展示



▲写真奥に向けて戦争を時系列的に学ぶことができるよう設計された、1階の展示空間



▲入り口前で来館者を出迎える巨大パネル



▲入り口近くに設置されたスタンプラリーコーナー



▲戦時中の民家が再現されたセット



▲映画館のようなスクリーンが搭載された視聴覚室

野尻湖ナウマンゾウ博物館

- 施設の概要(昭和59年開館・平成30年リニューアル)
 - ・ 昭和37年から始まり50年以上続けられている「野尻湖発掘」の成果を中心に、約5万年の昔から現在に至るまでの、野尻湖周辺の自然環境を研究・展示。
 - ・ 発掘された化石をもとにした実物大のナウマンゾウとオオツノジカの復元像や、豊富に展示されている骨器や石器の資料、実際に化石にふれることができるコーナーや、石器作りなどの体験ができる学習会もある。

出典:野尻湖ナウマンゾウ博物館(<https://nojiriko-museum.com/>)

■ 説明の概要

- ・ 発掘参加を通じて学びを継承し、全国の「友の会」と協働する参加型運営を実現している。
- ・ リニューアルに合わせて、「野尻湖人」の服装や化石発掘を体験できる体験コーナーを配置。SNSでの拡散も狙いに行っている。

■ 所感

- ・ 「発掘」を軸に地域・全国と連携して、展示更新・活動を行っている。



▲入口に設置された実物大ナウマンゾウの模型



▲実際に野尻湖で発掘されたナウマンゾウの化石



▲復元された実際の野尻湖畔での発掘現場



▲教科書に載っているナウマンゾウとオオツノジカの並べられた化石



▲入り口付近に置かれたクイズコーナー



▲入り口付近に置かれている英語・中国語・韓国語対応の温泉ガイド案内



▲1階体験コーナー(発掘体験)



▲今までの野尻湖発掘調査の年表